

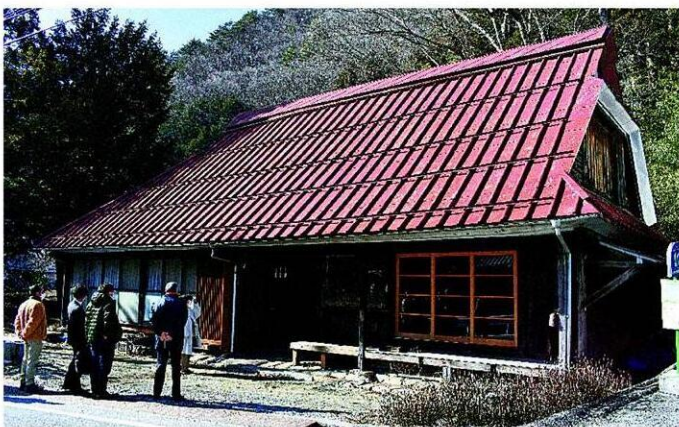
古民家 交流拠点に

笛吹・芦川 県立大生 手作業で改修

山梨県立大の学生が、笛吹市芦川町内の古民家を地域の交流拠点にしようと取り組んでいる。観光客向けのカフェや高齢者が集まるサロンとして活用し、少子高齢化が進む同地区の活性化につなげたい考え。年内には手作業で改修を完了し、2023年から本格的活用を目指す。
〈岡達也〉



交流拠点の開設について説明する学生ら



山梨県立大生が改修している古民家
＝いずれも笛吹市芦川町鶯宿

カフェ、サロン…活性化図る

取り組んでいるのは国際政策学部の安藤勝洋教授のゼミに所属する1〜4年生21人。ゼミでは2017年から、地域社会の課題解決をテーマに、同市芦川町内で古民家の清掃活動や農産物直売所「おごっそう家」での職業体験、地域散策を行ってきた。

備を進めている。今月8日は、芦川地区の宿泊施設で市職員や地域住民を対象に、事業計画を説明。学生たちは、同地区の野菜や特産品を使った料理を提供するカフェや、同大看護学部の学生と連携した高齢者向け交流会の開催を目指していることを伝えた。上下水道や空調設備、インターネット環境を整備するため、インターネットで資金を募る計画も話した。

ゼミのリーダーを務める4年の降矢拓磨さん(22)は「学生による単発の取り組みとしてはなく、住民や市と協力しながら、地域の活性化につながる継続的な事業として拠点づくりを進めていきたい」と話している。

同地区では少子高齢化が進んでいることから、訪れる人を増やすため古民家を活用した交流拠点づくりを計画。築200年以上、広さ約100平方メートルの古民家の所有者と交渉し、客間と台所を借り受けた。5年以上住居として使われていなかったため、昨年7月以降、学生が夏休みなどを利用して、床の骨組みを入れ替えて断熱材を入れるなど整